

研究テーマ： 学士課程教育における『学生支援型キャリア教育プログラム』の体系的構築に関する研究	
研究代表者（職氏名）： 経営情報学部 教授 （平成20年度キャリアセンター長） 森田勝弘	連絡先（E-mail等）： morita@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者（職氏名）： 総合教育センター 准教授 松尾智晶、助教 木本尚美、助教 五條小枝子、助手 平原敦子	

1. 背景と必要性（平成19年度の研究報告）

本学においては平成19年度にキャリアセンターが開設され、公立大学法人としての中期計画の中で『初年次を含むキャリア教育の体系化』が掲げられている。本研究は本学におけるキャリア教育を初年次より実施する形で体系化することを目的とし、経済産業省『社会人基礎力』等に挙げられる社会人として必要とされる能力や行動様式（社会性）職業観・勤労観を身につけさせる教育プログラムの構築をはかる。

平成19年度は以下の研究活動を実施した。

他大学調査

1年次キャリア教育科目実施準備（平成20年度より、広島キャンパス2学部において、1年次向けキャリア科目『キャリアデベロップメント』が開講された）

『いきいきキャンパスライフ・プロジェクト』の活動支援と成果の検証

「就職活動の手引き（学生用）」及び「就職活動の手引き（教員用）」の新版発行準備

いずれも、学生支援の視点から、キャリア教育プログラムの提供を通じて学生の「社会性」「キャリア形成力」を高め、その結果として学生自身の納得感高い自律的な進路決定が果たせる支援体制を構築するための基礎的活動であった。

2. 目的（平成20年度実施目標）

平成19年度の成果を受けて、平成20年度においては1)初年次からのキャリア教育科目開設とキャリア教育体系の構築、2)『学生支援型キャリア教育プログラム』として、キャリアセンターにおける「就職支援プログラム」も含めた進路決定（キャリア決定）に関する学生支援体制の整備、3)キャリア支援における学部教員の資質向上を目指す啓発的事業の実施、4)それら目標達成にかかわる調査研究の4点を活動目標とした。

本研究の最終目的は、全学3キャンパスそれぞれの特性を活かし、キャリア教育と学生の進路決定支援（就職活動支援）プログラムを統合した、体系的な『学生支援型キャリア教育プログラム』の構築・運用である。その成果として、現代社会が求める経済産業省「社会人基礎力」等の能力や、将来を通じて活用できるキャリア形成力を身につけた卒業生をより多く輩出し、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を目指す本学の人材育成目標達成の一助とする。

3. 実施内容および成果報告

平成20年度の研究活動として、以下を実施した。内容と成果を併せて報告する。

1年次向けキャリア科目『キャリアデベロップメント』の開講

広島キャンパス2学部対象の、共通教育・複合科目として実施した。登録人数は4学科合わせて74名であった。大学における学びの可能性と、大学 社会とのつながりを理解するとともに、学科を越えた交流機会として参加学生に好評であった。

『いきいきキャンパスライフプロジェクト』の活動支援と成果検証

学生の自発的取り組みを継続的に支援すると共に、平成20年度新入生ガイダンスにおいて、取組報告、5月に実施報告会を開催し、プロジェクトの広報と定着化を図った。

キャリア教育体系案の提示及び継続的審議

キャリア教育体系案をキャリアセンター会議に提示・審議のうえ、総合教育センターへ継続検討を提案し、高等教育推進部門会議ワーキンググループにおける審議課題とされた。

アンケート調査の実施

『学生支援型キャリア教育プログラム』の設計と継続的な効果測定をはかるべく、1)卒業生(平成17、19年度)【回収率10.8%】、2)本学卒業生採用企業【回収率32.7%】、3)本学教員【19.7%】、4)本学1期生、に「大学に求められているキャリア教育及びキャリア形成支援」「大学で身につける能力(例:社会人基礎力)」等に関する認識・評価・意見要望を把握するアンケートを実施した。成果報告書は平成21年度に刊行予定。

「就職活動ガイドブック」の発行

平成19年度の研究成果を受け、自律的な就職活動支援を目標としたガイドブックを作成、学生に配布した(保健福祉学部の人間福祉学科以外の学科は任意)。

「キャリアデザインブック」の発行

1年生を対象に、自発的な行動により大学生活を充実させることと自律的なキャリア形成の動機付けを目標としたワークブックを作成。平成21年度入学の1年生及び教員全員に配布する準備を整えた。

キャリア教育に関する講演会の実施

キャリア支援における学部教職員の資質向上を目指す啓発的事業として、以下の講演会を実施した。参加者は41名であった。

平成21年3月17日(火)9:00-12:10

1) 茨城大学教育学部 人間環境教育コース 教授 佃 直毅 先生

『大学における進路指導の経緯と発展。これからのキャリア教育のあり方について』

2) 秋田県立大学 就職支援委員会委員長・生物資源学部 教授 片野 登 先生

『面倒見の良い大学の実践について(就職率国公立大学中、全国1位実績)』

4. まとめ

中期計画にも掲げられた『初年次からのキャリア教育』を実施するとともに、学内外において本学キャリア教育プログラムに対する認知・理解度は高まりつつある。また、本学4学部の特性に合わせたキャリア教育プログラムの必要性も明らかとなった。本研究成果を活用し、平成22年度を目標に、全学におけるキャリア教育と学生の進路決定支援(就職活動支援)プログラムを統合した体系的な『学生支援型キャリア教育プログラム』の構築を果たしたい。

以上